

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議第1回会合 政治リーダーから寄せられたビデオメッセージ 仮訳

バラク・オバマ 元アメリカ合衆国大統領

初めて広島を訪れた時のことを、私は決して忘れることはありません。それは、世界中の核兵器の脅威を減らすという私自身の決意を強めた瞬間でした。そして、本日、皆様がここに集われたのもまた、同様のコミットメントによるものです。

ご存じのとおり、これは非常に困難な課題です。しかしながら、私たちが過去に進展を得てきたことは朗報と言えます。冷戦期のピークから、私たちがどれほど多くの世界の核兵器を削減してきたか考えてみてください。現在は、近年いくつかのほどかしい逆行があり、また、わずかな進展でさえも多大な努力が必要であるということを私たちは知っています。しかし、同時に、この努力にはそれに見合う価値があるということも我々は知っています。

私たちには、子孫のために核兵器のない世界を追求する責任があります。そして、国際的なリーダーたちによるこのグループは、私たちがそれを実現するために必要な協力を正に体現しています。岸田総理大臣、そして広島に集われた皆様に対し、このビジョンの実現に我々を近づけてくれることに感謝いたします。

フランク＝ヴァルター・シュタインマイヤー ドイツ連邦共和国大統領

岸田総理、御出席の皆様。広島を訪れたことのある方であれば誰もが人類の文明の終焉を目の当たりにします。私は自分がそこで見たものを決して忘れないでしょう。家々が土台から破壊され、爆弾の爆発場所には巨大な空き地が広がっていました。世界は広島と長崎で起きたことを忘れてはなりません。

これは私たちが人類に対して負っているものです。私たちはその痛みや破壊を適切に言い表すことはできないかもしれません。しかし私たちには、核兵器使用の恐ろしい結末を記憶し、将来の世代に教える義務があります。広島及び長崎は、国際社会、国家、そして市民として、私たちが核兵器のない世界の実現のために最善を尽くす義務を想起させるものです。

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議の第1回会合を広島で開催するに当たり、日本政府、そして良き友人である岸田総理に心から謝意を表します。

ロシアによるウクライナ侵略は違法かつ正当化し得ないものであり、これは欧州の安全保障枠組みを揺るがし、軍備管理・核軍縮を進める国際的な取組を毀損しています。ロシアは、同国からの安全の保証と引き替えに核兵器を放棄した国に対する攻撃を擁護するため、無謀な核のレトリックを用いています。明確に述べますが、ロシアの核のレトリックは危険かつ無責任なものです。しかしそれは不拡散分野における唯一の危機ではありません。

私が最近訪問した日本や韓国でも、北朝鮮の違法な核兵器及び弾道ミサイル計画による差し迫った脅威を目の当たりにしました。これは地域の安定及び世界的な安全保障に対する脅威です。

同様のことがイランについても言えます。イランの核計画が平和的性質のものであるかに対する多くの疑問が解決していません。したがって、私たちは、イランという平和裏の抗議者に残酷な対応をしている体制が核兵器を開発しないよう注力し続けなければなりません。

国際賢人会議は、現在の政治環境を踏まえ、課題や優先事項を特定し、核兵器のない世界に向けた現実的かつ実践的なロードマップを提案するという非常に困難な任務を負っています。この課題はかつてないほど困難かもしれませんが、同時に今まで以上に重要となっています。

私たちの世界は紛争と対立という新しい段階に入りつつあります。しかし私たちの目標は極めて明確です。それは核兵器のない世界です。確かに道のりは非常に長いものです。だからこそ、遠くを見つめすぎて見失うことがあってはならず、目の前の取組に集中しましょう。現実的、实际的、達成可能なあらゆる取組が重要です。平和と安定を促進し、全ての人の安全を損なわないあらゆる取組が重要なのです。

日本とドイツは、核軍縮のためのストックホルム・イニシアティブやN P D Iのメンバーとして、この目標に向けて非常に長い間協働してきました。私たちは、核軍備管理及び核軍縮を巡る膠着を乗り越えるべく、核兵器国と非核兵器国の間の橋渡しを模索しています。

私たちは、広島や長崎で生き残った方々に対し、核兵器のない世界の実現に対する揺るぎないコミットメントを負っています。ドイツはこの目標の実現に向け、引き続きあらゆる努力を惜しまないことを保証します。

アンソニー・アルバニージー オーストラリア連邦首相

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議の第一回会合に参加する機会をいただいたことに、私の友人である岸田総理に感謝いたします。

豪州と日本との関係は、最も成熟した、強靱なものの一つです。私は、首相に就任した当日に、初の外国訪問先として日本を訪問しました。また、その返礼として10月に岸田総理をパースにお迎えし訪問を成功させることができたことを喜ばしく思います。

豪州と日本は、多くを共有しています。しかし、日豪二国間関係の中核には、平和で繁栄し安全なインド太平洋が共通の利益としてあります。我々は、決して繰り返してはならない歴史を思い起こすために再び広島の経験は必要ありません。にもかかわらず、核兵器の壊滅的な脅威は、我々の世界、インド太平洋地域に、豪州に、そして世界の他の地域に存在し続けています。

本日、我々は不拡散及び軍縮に向けた新たな前向きな一歩を踏み出すこととなります。岸田総理のリーダーシップと決意に敬意を表します。このリーダーシップと決意は、御自身の広島との繋がり及び御親族の経験によって強固なものとなっていると承知しています。

核兵器が存在しない世界を構築するという岸田総理の願いを共有します。首相として、岸田総理と私は、プーチン大統領によるウクライナに対する核使用の威嚇は完全に容認できないものであり、断固たる国際的な非難に値するものであると強調してき

ました。また、北朝鮮が進める核兵器開発は安定し、安全で、法に基づくインド太平洋という我々の利益を損なうものです。核兵器の使用をちらつかせ威嚇するという非常な暴挙に出る者達に対し、我々は、国際的な非難や結末が待っているということを示さなければなりません。私は、岸田総理や他のパートナーと共に、我々の地域や世界における核兵器の恐ろしい影響を回避すべく取り組み続けます。

豪州は、不拡散や軍縮を支持してきた誇るべき歴史を持っており、私の政権もこの努力を続けていきます。我々は、不拡散レジームの強化、特にその礎石であるNPTに完全にコミットしています。核兵器の存在しない世界の構築に向け協働し続けましょう。

アントニオ・グテーレス 国連事務総長

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議にご挨拶申し上げます。また、この重要なイニシアティブを主導した日本に祝意を表します。

今回の第一回会合は、大きな危機に直面する中で開催されるものです。広島、長崎、そして冷戦の壊滅的な教訓にもかかわらず、核兵器は引き続き明白かつ現存する危険であり続けています。世界を破滅に導くこの兵器は、常に抑圧の手段として使用され、冷戦期の最も暗い時期以来となる明確な核使用の威嚇を我々は耳にしています。たった一つの間違い、誤算、誤解で人類は滅亡し得るのです。

友人達よ、分断を克服し、（核兵器に関する）レトリックを抑え、核兵器のない世界へと我々を導く解決策を見出すため、私たちは皆様の経験を必要としています。開催地（広島）は皆様の使命を駆り立てるものとなるはずで

私自身が目にしたとおり、広島は核兵器の悲劇や平和への希望の生ける象徴です。この精神を最も体現しているのは勇敢なヒバクシャです。私たちは、核の脅威の終焉を求める彼らの声に耳を傾けなければなりません。

私たちがこの極めて重要な目標を果たすべく取り組むに当たり、皆様の努力の成功をお祈りいたします。

フェデリーカ・モゲリーニ 欧州大学院大学学長（前欧州連合（EU）外務・安全保障政策上級代表兼欧州委員会副委員長）

今回はビデオメッセージの形ではありますが、「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議の第一回会合に参加できることを非常に光栄かつ嬉しく思います。このように素晴らしく時宜を得たイニシアティブについて日本政府に感謝します。第11回NPT運用検討会議第3回準備委員会を見据えた取り組みに胸躍る気持ちです。この目標は、今日かつてないほど明確に重要となっていると考えます。日本政府を通じて、私たちは、この目標を実現するための提言を行い、現実的なロードマップを定めることができるでしょう。

なぜそのように言えるのかといえば、私たちが置かれている今日の欧州の安全保障環境により、「核兵器のない世界」という目標に向け協働する必要性を強く実感しているからです。歴史的に見ても、緊張が最高潮に高まる時にこそ、核兵器に関するものを含む安全保障枠組みについて実際の進展が図られているという真実があります。また、今日、緊張状態がこれまでになく高まっているのは、ロシアのウクライナ侵略を巡って声高に叫ばれている核の脅威のみならず、核保有国や潜在的な核保有国による地域的な緊張が益々高まっているためでもあります。

このように、核の安全保障枠組みは、私たちが実際にはそれを最も必要としてきたここ数年の間に損なわれつつあり、一部では崩壊しているものもあります。今後数か月の作業では、具体的かつ即座に勧告すべき措置に関する分析を共有するとともに、現実的かつ実践的でありながら「核兵器のない世界」という非常に野心的ではあるが必要性の極めて高い目標の実現に向けて我々そして世界のためになる明確なビジョンをもった長期的計画、すなわち現実的かつ実際のロードマップに取り組む必要があります、またその好機にもなると信じています。

私は、イタリア議会でのキャリアの初期の頃からこの信念を持ってきましたが、それ以前からも「核兵器のない世界」に向けて国際社会が一体となって協働することの重要性を信じてきました。広島は強烈なイメージをもって我々全てに対し核兵器使用の悲劇を想起させるものです。

今日、私たちはこの目標に向かって世界を動かしていくための共通の責任を有しており、私はこのイニシアティブに心沸き立つ思いがしています。今後数年、数十年の我々の安全保障のため、実現可能で堅固で、かつビジョンがあつて前向きな提案ができるよう皆様と協働できることを楽しみにしています。ありがとうございました。2日間の会議の成功を祈念いたします。

モハメッド・エルバラダイ 元国際原子力機関（IAEA）事務局長

核兵器のない世界に向けどのように前進するか改めて評価するための賢人会議の開催について日本政府に対し心から感謝の意を表します。核軍縮の信念を実現する比類なき適任者がいるとすれば、それは日本です。広島での会合は、核兵器の恐怖とそれを廃絶する我々の共通の責任を強く想起させるものです。

広島、長崎以来積み重ねられてきた私たちの知見は、核兵器が私たちや地球にもたらす恐ろしい影響を裏付けるものばかりです。ICRCの言葉を借りれば、「核兵器は、それによってもたらされる言語を絶する人類の苦しみ、そして空間や時間に与える影響をコントロールできない点において唯一無二のものです。これは人間性自体を脅かすものなのです。」

国際司法裁判所も、NPTの下では「核軍縮につながる交渉を誠実にやり、交渉を妥結する義務が存在し、その義務はあらゆる面における核軍縮の明確な結果を達成する義務である」と明確に述べています。したがって、少なくとも私の見解では、昨今の全ての国による核兵器の拡張や現代化はNPT上の義務の明白な違反であり、当然のことながら新たに成立した核兵器禁止条約とも矛盾するものです。

こうした厳粛な法的義務に加えて、最近の核兵器使用の脅しのレトリックは、いかなる文脈のものであれ、核兵器の使用を考えられない悪夢からぞっとするような見通しへと変えてしまいました。かつてロバート・マクナマラ氏はこう強調しました。「リスクをなくす唯一の方法は核兵器を廃絶することであり、それは自明である」と。

核軍縮はリスクが高すぎると考える人々に対し、ケネディ米大統領は、1961年の国連総会においてこう答えています。「軍縮に内在するリスクは無制限の軍拡競争に内在するリスクに比べれば劣るものである。」

今日、より安全で安心な世界を創るために核兵器国にできることは多くあります。核兵器国は、高度な警戒態勢を緩め、各国首脳が核攻撃の報告を受けてから10分以内に対応しなければならないようないわゆる兵器の即時発射態勢を緩和することができるでしょう。また先制不使用政策を採用するとともに、あり得べき事故やサイバー攻撃に備える措置をとることもできるでしょう。CTBTを発効させることや、FMCTの交渉開始、核燃料サイクルに対する多国間アプローチの追求、極超音速の運搬システムや核推進ミサイルといった恐ろしい新技術の使用の管理を行うことも可能でしょう。

こうした措置に加えて、現存する核兵器の9割を占める米露間の核兵器削減交渉の再開も喫緊に必要です。こうした交渉はその後の段階で核兵器を保有する9か国全てに拡大されるべきです。私たちは、今日存在する唯一の軍備管理条約である新START条約を維持し、積み上げていかなければなりません。

しかし何より私たちは「相互確証破壊」ドクトリンという非常に重要な問題についても再検討すべきです。これは、当時インド首相であったラジブ・ガンディーが「少数の者により考えられる安全保障上の必要性のために人類を人質にとったテロリズムの哲学の究極的表現」といみじくも述べたドクトリンです。核兵器が平和を守るという議論は繰り返し行われていますが、実際のところは、単なる幸運によるものです。さらに、一部の国に核兵器の保有を許し、あるいは同盟関係の中で核による庇護を与えながら、他国に核を持たないように求めることは、長期的観点から見れば矛盾していると私は考えます。

同時に、核兵器に依存しない包摂的で、公正で、信頼のおける安全保障枠組みに関する考えや分析についての意見交換を開始することも不可欠です。それがどのようなものとなり、何が基本的な要素となるのか、どのように機能するのか。これは核軍縮というコインの裏側であると考えます。

私たちのアイデアが枯渇しているわけではないことは明らかです。私たちの思考が、既存のパラダイムが持続的ではなく、核兵器は単に私たちの頭上にぶらさがるダモクレスの剣であるということを受け入れずにいるのです。国際賢人会議が我々の方向転換に向けた一助となることを期待しています。

マルティ・ナタレガワ 元インドネシア外務大臣

まず初めに、日本政府及び岸田総理大臣に対し、私たち全員にとって非常に重要な課題について日本が卓越したリーダーシップを発揮され、「核兵器のない世界」への具体的な道筋を描くための国際賢人会議を設立されたことについて、深く感謝いたします。

私たちの世界では、信頼の欠如による深い分断、潜在的な係争の再生、更には公然たる紛争さえも発生しています。誤解や意図しない紛争のリスクは高まっています。極超音速ミサイルといった新興技術の出現により意思決定が一層困難となっており、合理的意思決定を行うことがはるかに複雑なものとなり、圧迫さえされています。このため、核兵器の使用リスクは減少しているどころか増大しています。

そしてそれらが正に最も必要な時に、外交や多国間主義に対する逆風が見られます。これは、単独主義の衝動や傾向のみならず、多くの場合、ますます内向きになり多国間のコミットメントを無視するようになった外交政策によるものです。その結果私たちは、気候変動危機、公衆衛生、持続可能な開発、国際の平和と安全に関わる現下の問題など、実際には協力的なパートナーシップを必要とする問題に対する協調的な取組が損なわれていくのを目の当たりにしてきました。

2017年の画期的な核兵器禁止条約の採択という注目すべき重要な例外を除いて、私たちは、核軍縮の進展の欠如、そして漂流し軽視されているとの思いを目の当たりにしてきました。

このような環境に直面する中、現状維持は容認できないものであること、生死に関わるリスクや脅威に直面していること、核戦争に勝者はおらず決して戦われてはならないこと、世界がパンデミックからの回復に努めている時期に、更に言えば、何億人もの人々が極度の貧困の中で生きている状況においてより多くの資源が用いられ、何百万、何十億もの資金が核兵器に費やされていることは、私たち全員が容認できないものであり、こうした点について意識を高め、何らの行動もとらないことによるリスクについて世論を喚起する必要があるのではないのでしょうか。

核兵器の使用、拡散、核実験に反対する規範を促進・増大させ、国家政策及び安全保障における核兵器の役割を低減させるために、いくつかのチームを中心に関心のある世論の意識を高める必要があります。私たち全員が直面しているグローバルな対応を必要とするこの問題に早急かつ効果的に対処できるよう信頼を高めるべく、既存の条約や合意の維持・強化に協調して取り組むとともに、更には軍縮・軍備管理交渉を再活性化する必要があるのではないのでしょうか。

私は、国際賢人会議が果たすことのできる役割がいくつかあると考えます。例えば、新たなビジョンとアプローチの特定があるのではないのでしょうか。その考えとは、安全保障は公共財であり、相手の犠牲の上に享受するものでもなく、むしろ、持続可能なものとするためには全ての者が享受できるものでなくてはならないというものです。

軍縮と核不拡散の問題に関する広範な世論の励ましと関与。国際賢人会議は、核軍縮の追求を再活性化させるために国際社会を動かすことにも貢献し得るでしょう。また、国際賢人会議は、核兵器禁止条約の促進・支援、CTBT、特に附

属書 I I に規定される発効要件国による署名・批准の促進・支援にも貢献し得るのではないかとおもいます。十数年前の話ではありますが、附属書 I I の国の一つとしてインドネシアが C T B T を批准し、非核兵器地帯を支持する義務と責任を果たしたことを誇りに思います。東南アジアでは、核兵器国の加盟を確保すべく熱心に取り組んでいます。これらは一部であり、更に推進する価値のある核不拡散及び核軍縮の取組は多数行われています。国際賢人会議が貢献し得るその他の分野として、核リスク低減に関する対話のための環境創出も考えられます。

私自身、国際賢人会議の重要な取組に貢献できるとの提案をいただいたことに恐縮していますが、私に寄せられた信頼が見込み違いなものとならないよう、最善を尽くしますので御安心いただければと思います。改めて、この重要な分野でかけがえのないリーダーシップを発揮してくださった日本政府及び岸田総理に深く感謝いたします。

ありがとうございました。